

YASUNORI TANAKA MANIFESTO 田中やすのり  
**Yasunori**

## 朝の駅頭にて区政報告を実施中!

### プロフィール

昭和49年板橋区成増生まれ。  
成増すみれ幼稚園、成増小、赤塚第二中、城西大学川越高を卒業。  
早稲田大学商学部を経て、大手広告会社(大広・博報堂DYG)に勤務。



### 監査委員に若くして抜擢!



### NPO活動

NPO地域コミュニティデザイン研究所を設立、  
代表に就任。成年後見制度普及、高齢者見守り・  
孤独死防止などに取り組む。

### 議会活動・政治歴

○2007年に板橋区議会議員選挙に挑戦して、上位にて初当選を果たす。現在は2期目。  
○都市建設、企画総務、健康福祉、文教児童委員会など幅広く歴任。都市建設、都市環境調査特別委員会、予算調査特別委員会の副委員長、交通対策調査特別委員会の委員長を務める。  
○2012年には30代の若さで監査委員として選任される。



子どもたちの健全な成長を支える活動、命を守る活動に励む!

### 資格・ボランティア

ボランティア: 消防団員(上級救急救命士)、いきいき寺子屋スポーツ指導員  
趣味: 早朝の硬式テニス、下手なジャズ・サックス

<http://www.tanaka-yasunori.jp> 田中やすのり 検索

連絡先: 〒175-0094 東京都板橋区成増2-11-8  
TEL: 03-6303-1130 FAX: 03-3939-4211 E-Mail: mail@tanaka-yasunori.jp

# YASUNORI TANAKA MANIFESTO 「田中やすのり」 **Yasunori**

不退転の決意で語る  
**板橋の未来図**

## 地域の力を引き出す

街が抱える課題や社会問題を地域の力によって改善できる仕組みを構築する

## 命を守り、弱きを助く

防災をはじめ、防犯・自殺・いじめ対策などの充実を図る

## 未来を若者たちに繋ぐ

ムダのない未来志向の制度設計を実現する

# miraiizu

田中やすのり区議会レポートVol.20 2015年3月発行



不退転の決意で語る

# 板橋の未来図

板橋区議会の壇上に上がり、早くも8年目を迎えた。

幅広く常任委員会を歴任し、監査委員も務めた経験からは、将来の板橋の課題をどう捉え、区の未来はどう映っているのか。

## 田中やすのりに三つの決意を聞いた

地域の力を  
引き出す

行政だけでは解決できない街が抱える課題や社会問題を地域の力によって改善できる仕組みを構築する。

命を守り、  
弱きを助く

地方行政の最大の使命は、住民の命を守ること。防災をはじめ、防犯・自殺・いじめ対策などの充実を図る。

未来を  
若者たちに  
繋ぐ

これからの板橋の未来を築く若い世代に負の遺産を残さない財政運営を徹底し、ムダのない未来志向の制度設計を実現する。

早いもので私が議会活動を始めてから既に8年が経ちました。この8年間、常に心がけ、これからも変わらない3つの決意をお伝えします。

1つ目は「地域の力を引き出す」こと。地域が一丸となり運営を支えていく「コミュニティ・スクール」、元気なシニアを介護サポートへと誘導する「介護ボランティアポイント制度」等の実現を求めています。地域でつくる防犯・防災安全マップ事業も拡充していきます。なお、地域力を高めるために必須といえる「町会加入率の向上」や「商店街の賑わいの創出」に引き続き取り組んでいきます。

2つ目は、「命を守り弱きを助ける」ことです。いつ起こってもおかしくないと言われている首都直下型地震への備えが急務であることは言うまでもありません。災害発生時の初動活動が円滑に実施できるために、川越街道な

どの「緊急輸送路・避難路沿いの耐震化」や「避難所の食糧などの備蓄品の拡充、運営体制の実効性の確保」を優先して進めなければなりません。また1人では移動・避難が困難な「要援護者」対策も充実が必要です。

実際に誰が安否を確認し、避難所への誘導をどのように行なうか?等の個別援護計画の策定が求められます。

3つ目は「未来を若者たちに繋ぐ」こと。厳しい財政状況の中、区としては民間の力を積極的に活用し、財政効果を出しながらサービス水準を高める工夫が必要です。例えば、赤塚体育館のように民間の運営に移ってからサービス向上により、利用者が増えた上に、運営コストを抑えることに成功した事例を他にも広げていきます。また、類似事業を統合し、ムダを徹底的に省くことで、重複・縦割り行政にメスを入れていきます。

**教育  
 子育て**

**地域が地域の子どもを育てる学校を創る  
 そして、社会が子育てを支える環境を築く**

**あいキッズ事業を推進！  
 放課後の子どもたちに安心の  
 居場所づくりを**

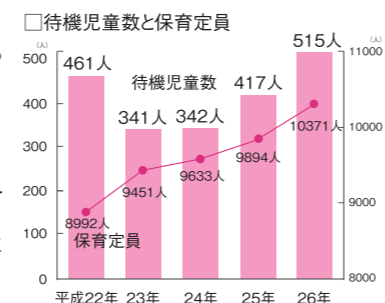
全ての子どもたちが交流できる安全安心な放課後の居場所を提供し、遊び・文化・スポーツなどの体験、地域との交流、学習によって子どもたちの成長を図る事業である「あいキッズ」の充実を求めています。特にあいキッズにおける質の向上を絶えず図るとともに、安全面での対応を強化します。要支援児への対応の充実にも努める必要があります。運営法人が自らスタッフの配置を行なう場合には区からの補助拡充などの措置を要請していきます。



放課後に元気な声が飛び交うあいキッズ

**待機児童の解消に向けて、  
 多様な保育を提供し総合相談  
 窓口を設置**

保育所入所待機児童は、平成26年度には515人となっており、増加傾向が続いています。区はこれまでも定員を大幅に増やしてきましたが、今後も認可保育所の民営化による定員増加や新規開園の促進が求められます。同時に、小規模保育のスマート保育や家庭福祉員など多様な保育サービスも拡充しながら、これらの多様な保育サービスと保護者のニーズを繋げる保育総合相談機能の充実が必要となります。



**地域の子どもは地域で育てる！…この考えが板橋に根付くように仕組みを創り、自ら率先して学校支援に取り組みます。急務といえる待機児童解消や子育て支援の充実などのためにも要望と提言を続けていきます。**

**在宅子育て支援の充実**

核家族化や地域コミュニティの希薄化が進む中、地域でいろいろな関わりの中で子育てを行なえるように、交流や支援の場をさらに充実し提供していきます。児童館を乳幼児向けの子育て支援の場として活用を図り、親子交流サロンである0・1・2広場も拡充していきます。また、子どもと家庭のあらゆる相談に応じ、児童虐待の予防や養育困難な家庭を支援するために子ども家庭支援センターの解決機能をより強化させます。

**ICT教育の環境を整備・拡充**

タブレット(多機能携帯端末)などの情報機器を児童・生徒に配布し、学習活動に活用する「ICT教育」の可能性に積極的に挑戦します。電子黒板などにより授業を分かりやすく、面白くすることで教育効果を高めたり、社会で必要な情報リテラシーも身につけさせます。ICT支援員を配備し、教員のサポー

トを図るとともに、モデル的なデジタル教材を提供し支援を図ります。また、発達障害など特別な支援を必要とする子どもたちにとっては障がいの状態や特性に応じてICTを活用することで、教科指導や自立指導の効果が高まるように工夫を凝らします。

**地域が見守り、育てるコミュニティ・スクール**

保護者、地域の人々、学校、教育の専門家、ボランティアなどのたくさんの人々が丸くなって創る学校である「コミュニティ・スクール」(地域運営学校)の仕組みを進めます。コミュニティ・スクールへの発展可能性のある学校支援地域本部の充実を強力にバックアップします。

**学びの共同体**





# 10 田中やすのりの 要望が実現

## 5つの政策



### 地域

地域のことは地域の力で解決できる仕組みを！

- 地域力を活かした高齢者の見守りネットワークづくり
- 地域が学校を育てていく「コミュニティ・スクール」を始めよう



### 防災

急所・弱点のない防災体制をつくる！

- 国道などの緊急輸送路・避難路沿いの建築物の耐震化率を“100%”へ
- 1人では避難できない要援護者を全員把握し、個別に支援計画をつくる



### 行政改革

徹底的にムダをなくし、癒着は断ち切る！

- 類似事業は統合を進め、二重行政は撲滅へ
- 新たに民間の力を活用し、経費を削減しながら、サービスの向上を実現する



### 誇り

板橋に誇りと愛着を抱かせる施策を展開！

- 賑わいのある商店街を復活する
- 絵に描きたくなる景観を創出する
- 児童館を文化拠点として開放を



### 都市

持続可能な都市を目指す！  
Think Globally Act Locally

- 自然教育、地産地消の推進
- 日本の原風景を感じ、多様な生物が行き交う場を復活する

実現1 帰宅困難者ステーションが「4→12カ所」に拡充

12カ所

約3km以内の範囲で駅や幹線道路からの近い場所に設置。一時的な休憩や交通復旧までの待機の場所を提供する。

実現2 スクールゾーンを「7:30~8:30」に統一的に変更

7:30  
↑  
8:30

警察署の協力をいただき、スクールゾーンの規制時間を児童の登校時間帯の実態に合わせ変更を行なう。

実現3 小・中学校、保育園に緊急連絡メールの仕組みを導入

小中保

学校の緊急連絡メールを導入し、保護者に対して災害や不審者情報などの緊急時連絡の迅速性を確保。

実現4 避難所に備蓄される食料などの備蓄物資を「2→3日」分に拡充

3日分

約3日間は道路開通しないと想定。食料・生活必需品や災害用品などの備蓄物資を災害時から3日間で確保

実現5 ひとり暮らし高齢者を生活リズムセンサーが見守る

生活リズムセンサー

生活リズムセンサーが生活動作を確認し、ひとり暮らし高齢者の安否を確認する緊急通報システムを導入。

実現6 新庁舎南館の窓口ワンストップ・サービスを開始

ワンストップ・サービス

複数の窓口にわたる手続きを最初の窓口で一括予約する受付案内システムを導入。窓口ごとの二重待ちも解消。

実現7 赤塚支所の改築と併せて「防災センター」を新設

防災センター

赤塚支所に最新の防災センター機能を設けることで、区役所本庁舎との二重体制で初動の震災指揮を行なえる。

実現8 未耐震だった赤塚二中を改築。校庭地下にゲリラ豪雨対策も

ゲリラ豪雨対策

赤塚二中を耐震化するために改築を実施。同時に、校庭地下には貯留槽を設け、近隣の水害対策を施す。

実現9 空き家を区内全域で調査し、緊急安全工事を実施

緊急安全工事

全件調査により把握ができた危険度の高い老朽建物に対して、区が所有者に代わって緊急安全対策工事を実施。

実現10 障がい者施設からの物品などの優先調達に目標額を設定

物品50万円  
総額1,200万円

区は優先して障がい者施設からの物品と役務の調達目標を設定し、障がい者の就労・自立を促進する。